

アオバナ絞り機 (草津市蔵)



今回紹介するアオバナ絞り機は、草津名産“青花紙”を作るときに使う道具です。青花紙の歴史は古く、6月号で紹介した江戸時代後期の画僧・横井金谷（よこいきんこく）も伝記の中で紹介しています。

もとは草津小学校に保管されていたもので、厚さ2cmほどの板を箱型に組み合わせた形をしています。絞り機の片側には絞ったアオバナの汁を流すための口がつき、中にはアオバナの汁を流れやすくするための溝が付いています。

このアオバナ絞り機は、摘み終わった花びらを、汁が出やすいように手でつぶしておき、絞り機の中に入れ、蓋をし、柱の穴に通した天秤棒に重しを掛けることで、てこの原理でアオバナを絞り、多量の汁を取ることができました。

このアオバナ絞り機が使われていた年代は不明ですが、寛政9年（1797）刊行の『東海道名所図会』にも同様の形状のものが見受けられるため、江戸時代頃から昭和前期の、草津での青花紙作りが盛んであった時期と考えられます。青花紙については、草津宿ホームページで紹介していますので、併せてご覧下さい。

（令和7年8月・草津宿街道交流館 八田 将史）



東海道名所図会 (草津市蔵・部分)